法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-11-09

キャリア支援を考える １ ： すべてのライフステージで必要

川喜多, 喬 / Kawakita, Takashi

(出版者 / Publisher)
教育新聞社
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
教育新聞 / 教育新聞
(号 / Number)
2522
(開始ページ / Start Page)
3
(終了ページ / End Page)
3
(発行年 / Year)
2005-02

Hosei University Repository

キャリア支援を考える —1

すべてのライフステージで必要

法政大学キャリアデザイン学部教授　川喜多　喬

大学は、本来、キャリア支援をする機関である。

私が、キャリアデザイン学部の設立に参加したとき、某大学の法学部の教授から、こう言われた。そもそも立派な学部は、漢字一文字である。歴史から見て神学部、法学部が大学の基幹をなし、文学部、医学部、理学部、工学部、薬学部と続く。古典をもたぬ学部が二文字で、経済学部、経営学部、教養学部など。バブル時代に漢字四文字学部が生まれて、総合政策学部、現代福祉学部など。それをおまえの学部はなんだ、八文字であるがうえに、カタカナではないか？　と。その法学部はロー・スクールを作るのだと言う。なに、やっぱりカタカナをつけたのである。

最近、ある月刊誌が、キャリアデザイン学部を「おもしろ学部」として紹介してくれた。なかば、ありがた迷惑である。おもしろくするために作ったのではないし、カタカナを好んで使ったのではない。ただ、経歴とも履歴とも航路とも進路とも行路とも、どうも訳しきれず、西周（にしあまね）ほどの教養がないので、キャリアのままで行こうというだけのことである。

デザインは設計と訳しても構わないが、デッサンといい、素描と訳しても構わない。マチスがパリの街角のカフェでデッサンをしていた。15分ほどですてきな女性の素描画が出来上がった。傍らの人がマチスに聞いた。「その絵はいくらで売れるのだ？」と。マチスは80万円と答えた（〇〇フランと答えたのだが翻訳をしておく）。

「え、15分間で80万円？」。驚いた傍観者に、マチスは「いや、30年だ」と訂正をした。見事なデッサンを15分でするのには30年の修業がいる、とマチスは言いたかったのである。キャリアデザインもそういうもので、本格的な人生設計には人生そのものの長い経歴が必要であろう。とはいえ、本格的な絵を描くためにデッサンから入る。

そのように、小さな子供のうちから職業を中心とする人生の設計を学ぶべきである。どんなによちよちとした歩みからであろうとも。

キャリア支援という言葉は、企業では中高年社員の転職先や退職後の職探しの手伝いを意味することが多く、心理学者シャインもかつて35歳ぐらいからキャリアは定まってくると言った。

しかし、小さい頃から始めてすべてのステージでキャリアデザインは必要である。それに初めて気がついた方が変である。「最終学歴」を授ける学校に、キャリア支援こそ本来の目的であることを疑う教員がいる方が異常である。

<AN10113317>「教育新聞—The educational news」No.2522/pp3/2005.2.28